

一般質問通告表

令和5年第1回始良市議会定例会（3月8日）

<p>10. 益森 隆史</p>	<p>1. ふるさと納税への取組について</p>	<p>(1)持続可能な歳入源として、ふるさと納税があげられる。始良市ふるさと納税での寄付額は年々向上していると認識しているが、令和4年度の寄付見込み額を問う。</p> <p>(2)令和4年度は前年度までと比べてどのような取組を行ったのか。どのような取組が成果に結びついたのか、その内容を問う。</p> <p>(3)ふるさと応援基金について、令和5年度の予算の中でどのように活用していくのか問う。</p> <p>(4)施政方針の中で、令和5年度の寄付額目標を5億円と設定している。この目標達成のためにどのような施策を行うのか、その内容を問う。</p>	<p>市長</p>
	<p>2. 柔軟な行政対応について</p>	<p>全ての自治体でコロナ禍や少子高齢化で財政が不安定な状況であるが、本市においても財源見通しが大変厳しい状況にある。</p> <p>その中においても近隣他市では給食費無料や、給食費半額、16～18歳へ毎月5,000円支給、第2子保育園無料等、子育て層への支援や移住者支援、観光DX化、ゼロカーボンの取組を当初予算に盛り込んでいる。しかし本市にはその目玉となりうる平等な市民サービスといえる新規施策はない。歳入の向上や自主財源を確保する事は大切だが、歳出を抑えながら新規施策を行う事は非常に重要となってくる。そこで以下の内容を問う。</p> <p>(1)現状は一般財源100%での執行を避け、県や国の補助や助成を絡めた事業執行がメインとなっており、この点</p>	<p>市長</p>

		<p>は大変評価できるものである。しかし、計画策定をしていないタイミングでの補助金や助成金に対しては、すべて逃しているのが現実である。この点を見直し各部署において、補助金や助成金に申込み採択されたら議案とする、または執行するという体制を取れないのか問う。</p> <p>(2)令和5年度の起債事業を除く、一般財源を絡めた補助金や助成金を受けられる事業の計画を示せ。</p> <p>(3)万博首長連合等の観光DXを得意とする自治体ネットワークに参加することで補助金や助成金の採択率が上がると考える。類似の自治体ネットワークへの参加はしているのか、また参加する考えはないのか問う。</p>	
11. 谷口 義文	<p>1. 専決処分について</p> <p>2. 高等教育機関設置について</p>	<p>このところ、職員の交通事故に関する賠償の専決処分が多くなっているように思われる。</p> <p>公務中とはいえ、運転には細心の注意と責任が求められる。一歩間違えば人身事故にも繋がりがねない。起こした方も起こされた方もお互い不幸である。</p> <p>公務中の車輛の利用、運転の在り方についての対策と取組を問う。</p> <p>市長に就任され1期目4年、2期目も早1年が経過しようとしている。</p> <p>「公立大学法人による看護系の短期大学の新規設立」を公約に掲げ当選されたが、今になって考え方、方向性が変遷し、一貫性に乏しい。5年間の事業継続は果たして妥当であったのか。よって詳細について以下を問う。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>

		<p>(1)令和4年第2回定例会の同僚議員の質問に対し3年9か月分の経費について、事業費で432万5,990円、職員の3名分の給与等を含めた人件費で9,669万4,140円となり、総額で1億100万130円となっているとの答弁である。その後の現在までの経費総額の詳細を問う。</p> <p>(2)同じく、愛知県に所在する国立大学法人豊橋技術科学大学との間において、サテライトキャンパスに関する協議を進める合意形成が図られたことを報告しますと答弁している。その後の協議の詳細を問う。</p> <p>(3)上記大学を推進するために、高等教育機関内に設立準備事務局を設置し、誘致実現へ向けた動きを加速させたいとの答弁であるが、加速しているのか。</p> <p>(4)令和4年度第4回定例会においての同僚議員の質問に対して、今後の方向性として高等教育機関の「新規設立」ではなく「誘致」に舵を切り、本事業を継続することとしたとの答弁であるが、「新規設立」は断念したとのことか。議会、市民に対して事業変更の詳細を丁寧に説明、報告すべきではないのか。</p> <p>(5)高等教育機関設置に関するニーズ調査を実施したが、この結果をどのような形で「誘致」に繋げていくのか、明確な具体例を示せ。</p> <p>(6)「新規設立」もさることながら、「誘致」も相手があることであり、ハードルは非常に高い。</p> <p>　　今後は調査、研究、協議をいつまで続けていくのか。市民の関心も高い、歩みを進めるも止めるも、また実現可能かどうかの市長の勇気ある決断が問われている。判断も含めて、見解を</p>	
--	--	--	--

		<p>問う。</p> <p>市長の隔靴搔痒たる思いは、議会も市民も同じであることを最後に申し上げたい。</p>	
12. 竹下 日出志	<p>1. 学校等におけるてんかん発作時の口腔用液(ブコラム)の投与について</p> <p>2. 奨学金の返還支援について</p>	<p>てんかんは、発作を繰り返す脳の病気で、乳幼児から老年期までに幅広くみられ、人口100人のうち(0.5~1%)が発症するといわれている。</p> <p>文部科学省では、学校などで児童生徒がてんかん発作を起こした場合、教職員らが迅速に鎮静させるための治療薬「口腔用液(ブコラム)」を投与できることを関係者に知らせる事務連絡を発出し、周知を呼び掛けている。</p> <p>(1)てんかん発作時の口腔用液(ブコラム)を投与できるとの事務連絡について、各学校にどのように伝達されているか。</p> <p>(2)ブコラム投与の医師からの書面指示について、保護者と連携し適切に対処するための職員への研修や児童生徒の医療情報の遺漏防止対策など、学校側がブコラム投与に適切に対応できる体制の整備をどのように考えるか。</p> <p>若者が夢と希望を持って生きられる環境を整えることは大切である。日本学生支援機構の調査では、なんらかの奨学金を受給している学生は大学で49.6%、短期大学で56.9%に上り、卒業後の返還の負担に悩む人も少なくない。</p> <p>多くの自治体では地方移住を応援するため補助金支給や助成金などさまざまな支援を行っている。国も地方創生のために奨学金返還支援(代理返還)制度を用意</p>	<p>市長 教育長</p> <p>市長 教育長</p>

		<p>し、奨学金を使って学校を卒業した若者を支援している。</p> <p>(1)本市の奨学金育英事業基金の返還状況はどのようになっているか。</p> <p>(2)若者の定住や就職、企業の人材支援等を含む地方創生につながる奨学金返還制度を導入する考えはないか。</p>	
13. 新福 愛子	<p>1. パートナーシップ宣誓制度の導入について</p> <p>2. 投票しやすい環境整備に繋がる選挙支援カードの導入について</p>	<p>性的マイノリティー(LGBTQ)に対する前首相秘書官の発言を機に、LGBTQに対する差別や偏見、不適切な取扱いを解消し一人ひとりの人権や多様性が尊重され、誰もが安心して暮らしていける社会の実現を求める声が大きくなっている。</p> <p>本市議会では平成28年から一般質問で取り上げられ、市においても始良市男女共同参画基本計画において「性の多様性についての正しい理解を求める広報・啓発の促進」が掲げられており、施策では「性の多様性に関する情報と学習提供」として3課が担当課となっている。</p> <p>(1)今回の発言に対する感想を問う。</p> <p>(2)男女共同参画課、健康増進課、学校教育課におけるこれまでの取組を問う。</p> <p>(3)県内では、既に鹿児島市・指宿市がパートナーシップ制度を導入している。本市でも導入を考えないか。</p> <p>札幌市で始まった「選挙支援カード」は、障がいがある人がスムーズに投票できるよう必要な支援を事前に記入できるもので、当事者の声から生まれた“1票をつなぐカード”である。現在、全国に導入が広がっており、高齢者なども使えるようになっている。有権者にやさしく投票しや</p>	<p>市長 教育長</p> <p>市長 教育長 選挙管理委員会委員長</p>

	<p>3. 公共施設における照明のLED化について</p> <p>4. 原子力防災訓練について</p>	<p>すい環境整備と投票率の向上をめざし、本市でも導入を考えないか。</p> <p>2015年に公布された「水銀汚染防止法」により、水銀使用製品は2020年から製造・輸出入が禁止されており、特に水銀灯を多く使用している体育館等の大型施設ではLED照明への切替が急がれている。</p> <p>(1)本市の公共施設の現状を問う。 (2)省エネとコスト削減効果が期待できるリースによるLED照明の導入を検討できないか。</p> <p>2月11日に鹿児島県の原子力防災訓練が3年ぶりに住民も参加して実施され、「原子力防災アプリ」も初めて活用された。今回の訓練の成果と課題を問う。</p>	<p>市長 教育長</p> <p>市長 教育長</p>
<p>14. 峯下 洋</p>	<p>1. 始良市に期待するもの</p>	<p>昨今のIT技術の活用については、特に目を見張るものがある。</p> <p>万人に平等に与えられているのは1日24時間だけであると考え。他人の時間を勝手に浪費すべきでないと考えている。</p> <p>そこで、始良市としても市民と一緒にサービス向上を目指すべきと考えて以下について問う。</p> <p>(1)事前予約可能な飲食店などに習って、来庁者をスマートフォン等で事前予約制と併用にする事での忙しい人への待ち時間の節約に対応する考えはないか。 (2)他自治体でのようにAIで24時間対応の子育て相談などしていく考えはないか。</p>	<p>市長 教育長</p>

	<p>2. IT技術推進策について</p>	<p>(3)日本の人口減に歯止めが利かなくなっているが、本市は現段階で、県内唯一人口増を継続している。今、目玉政策を立てていくべきと考えるがどうか。</p> <p>(4)人口は増えているが自治会離れに拍車がかかっているが対応策を問う。</p> <p>ロケットに乗って月世界・宇宙旅行を楽しんだり、無人タクシーが空を飛ぶ時代が間もなく到来する報道を目にすると少年時代に漫画で見ていた世界がすぐそこまで来ていると感じてワクワクしている。</p> <p>そこで以下について問う。</p> <p>(1)教育現場の校務支援システムの導入で職員の労働時間・職務の簡素化はどの程度達成されたか。</p> <p>また、児童生徒のパソコン習得はどの程度進んでいるか問う。</p> <p>(2)他自治体でドローン操作を教えて資格を取らせる学校ができたとのことである。始良市としてもさらに人口増に繋げるためにも、このようなIT技術に特化したビジネスを誘致する考えはないか。</p> <p>(3)救急車が受入れ要請をするのにタブレットを使用して一斉送信で受入れ先を確保する事が可能になるとの報道がある。折角早く現場についても受け入れ先を探すことで時間が無駄に経過することは得策ではないと考えるがどうか。</p>	<p>市長 教育長</p>
--	-----------------------	---	-------------------